

森と共に生きるまち宍粟の

# みどりじまん新聞



Vol. 14

令和6年2月号



バックナンバーは  
こちら

## 木育 過去ニュース

2022年9月  
宍粟市木育推進方針策定



## 林業で暮らしをデザインする

研究者 貴志 倫生也

私は、令和5年4月から兵庫県立森林大学で林業について学んでいます。社会全体に有益な影響を及ぼす森林の機能を維持・管理する上で、林業は極めて大切な産業であると改めて感じています。林業の課題として、高齢化による人手不足や木材価格の低迷など数多くあります。森林大学では、これらの課題解決に向けて、森林についての幅広い知識や技能を備えた人材育成に力を入れています。今回は、私自身が将来即戦力となる人材をめざし、林業を維持発展させる取組を学ぶため、令和5年7月に和歌山県有田川町で2日間のインターンシップに参加しましたので、まずその内容を紹介します。

## ●農業と林業で実現する暮らし方

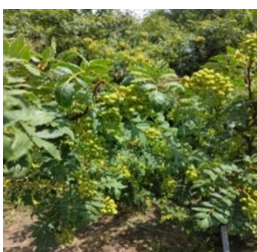
和歌山県有田川町は、平成18年に吉備町、金屋町、清水町の3つの町が合併してできた町です。有田川町の東部に位置する清水地域は、爽やかな香りと強い辛味が特徴の「ぶどう山椒」や強度・耐久性に優れた良質な木材である「紀州材」の産地として知られていま

す。しかし、農業や林業を中心とする一方で、過疎高齢化による後継者不足が深刻化しており、産業維持の課題を抱えています。そんな中、有田川町では課題解決のため、「半農半林」による暮らし方を提案し移住を促進しています。

「半農半林」とは読んで字のごとく、農業に従事しながら、閑散期などに林業の仕事にも携わっていく働き方のことをいい、有田川町では町内の特産品である「ぶどう山椒」や「有田みかん」など、短い期間で収穫できる作物と林業を組み合わせることで安定した収益を実現する暮らし方を提案しています。

## ●ぶどう山椒の収穫

収穫作業は、「ツメ」という道具を使用して、房なりに実ったぶどう山椒を手摘みで丁寧に収穫していきますが、その際に山椒の爽やかな香りと色鮮やかな緑を感じることが出来ます。【写真1】



【写真1】  
房なりに実るぶどう山椒

になったそうです。  
夏場の収穫期には、乾燥山椒にするため木になるべく負担をかけないように残さず収穫する必要があります。特に人手が必要になります。【写真2】



【写真2】  
7～8月は乾燥山椒として収穫

また、ぶどう山椒は雌雄異株。花粉を作る花と花粉を受粉し種子を作る花が別の為、雌木5～10本に対して、雄木1本を植えることや、接ぎ木（土台となる台木を切断してぶどう山椒の木を接合する）が必要になることなど貴重な話を聞くことができました。  
有田川町では、町民だけではなく、事業者や行政など町全体で山椒の用途を広げたりPRしたりとブランド化に力をいれていると感じました。

## 「みどりじまん新聞」は

“木育”の視点を持って「森と共に生きるまち“しそう”」が誇る“みどり”の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。発行にあたっては、「兵庫県立森林大学」の学生が執筆し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

## ●山椒の特徴について

山椒はミカン科・サンショウ属の落葉低木（時期が来たら葉が落ちる、高さの低い木）の植物です。英名「ジャパニーズペッパー」とも呼ばれ、若葉や果皮の強い香りや辛味から香辛料として使われているほか、薬用としても用いられています。また、山椒の木材は、すりばちで物をすりつぶす際に使用する「すりこぎ」や材の黄色味を活かして、幾何学模様が特徴的な工芸品「寄木細工」に使用されています。

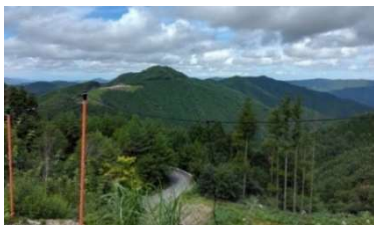
山椒の生産量日本一は和歌山県で、兵庫県は3位（農林水産省 平成30年特産果樹生産動態等調査結果より）になり、「朝倉山椒」や「西はりま山椒」のブランド名でおなじみです。

## ●半林の働き方について

有田川町清水地域は、古くから林業が盛んな地域でもあります。写真3・4は、緑の循環を目的として皆伐（全て伐採する方法）を行い、搬出した木材を集積した土場の様子です。



【写真3】土場の様子



【写真4】清水地域の林業事業現場

地元の森林組合や林業会社では、ぶどう山椒の収穫・施業時期になれば、林業を離れて従事できる自由度の高い働き方が可能で、この期間、本業の林業については

「植林」「下刈り」「保育間伐」などの請負業務に限って営まれているそうです。

実際に山椒農家と協力しながら林業に従事している方に話を伺ったところ、林業や農業単独で生計を立てるのは難しく、他の業種との組み合わせにより生活を安定させているようで、少しずつ山椒栽培に力を広げていくことの魅力を語っておられました。

ぶどう山椒を栽培する際に、廃業する農園を譲り受けたり、休耕田を利用する方法もあると仰っていました。里山の保全や利活用という点で、幅広い働き方をPRすることで新規就農や新規就林が増えるのではないかと思います。

平成30年林業経営統計調査報告【表1】によると、家族経営での1経営体当たりの年間粗収益は3780千円で、林業粗収益から林業経営費を差し引いた林業所得は1038千円と低く、兼業で生計を立てる必要性が伺えます。また、将来独立・起業を考える人にとって半農半林の働き方は選択肢の一つになり得ると思います。

【表1】家族経営体（全国）  
（1経営体当たり）の経営収支等  
出典：農林水産省「林業経営統計調査」

| 区 分      | 単位 | 平成30年 |
|----------|----|-------|
| 保有山林面積   | a  | 6,435 |
| 林業粗収益    | 千円 | 3,780 |
| 素材生産     | 〃  | 2,144 |
| 立木販売     | 〃  | 207   |
| その他      | 〃  | 1,429 |
| うち造林補助金  | 〃  | 648   |
| 林業経営費    | 千円 | 2,742 |
| うち請負せ料金  | 〃  | 1,065 |
| 器具・機械修繕費 | 〃  | 465   |
| 雇用労賃     | 〃  | 306   |
| 林業所得     | 千円 | 1,038 |

## ●宍粟市で半農半林に適した作物

宍粟市で半農半林を実現するために、気候や土壌に適しており栽培しやすいブルーベリーやラズベリー、マルベリー（桑）が良いのではないのでしょうか。

特にブルーベリーは農作業の時間が比較的短く、かつ収穫量が多いため、林業との組み合わせに適していると考えます。

また、宍粟市波賀町には、ブルーベリー園が多数あり、特産品として有名です。で、人の目に留まりやすいというメリットもあります。そのほかにも生産量では山椒や枝豆等が競争力に長けていると思います。

## ●まとめ

半農半林についての和歌山県の取り組みは、土地の特産品を取り入れながら林業の新しい可能性を示すものとして、大変感銘を受けました。

私は将来、自分の山を所有して森林経営をしたいという思いを持っています。しかし、山を所有していても活用しなければ自然の恵みを生かすことができません。地域の強みや自然の魅力を生かして生計を立てることを考えながら、独立・起業を視野にこれからも色々と学びたいと思っています。



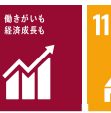
兵庫県立森林大学校  
Hyogo Prefectural College of Forest Management

森林経営や森林林業に関わる  
人材を幅広く育成する学校

【学校見学 随時受付中】



学校 HP



宍粟市は「森林」を活用したまちの創造・SDGsに取り組めます